

3.【学術会議について】

池上会員（河村会員の代理）より次のような報告があった。

日本学術会議農業経済学研究連絡委員会（第17期・第5回）報告

2000年3月31日に、標記の会合が東京大学農学部で開催された。研連委員会事務局より、村研に対してオブザーバー参加の要請があり、安孫子会長の依頼を受けて池上甲一会員（近畿大学）が出席した。

第18期の農経研究連絡委員9名（会長を除く）の選出ルールについて協議され、輪番制の2名分については98年度の県連委員会の決定どおり九州農業経済学会と日本村落研究学会にそれぞれ1名ずつ配分することとなった。2000年6月ごろに委員を選出する予定。任期は2年間である。なお、今期から3学会が新しく農経研連委員会に登録されたので、今後は7学会で2名を順番に回すことになる。

研連幹事（事務局）については日本農経学会の学術会議担当常務理事が担当する。

2000年度第1回研連共催シンポジウムは地域農林経済学会大会（10.28～10.29、京都大学）において開催する。

各学会の動向について紹介があった。村研としては今年度の大会（愛媛）予定のほか、IRSA日本招致決定の折には関連学会に協力をお願いしたい旨の発言をした。